

## 企業ニーズから産学連携へ！ -NASCA、一年の状況-

財団法人 大阪科学技術センター  
ATAC副会長 五百藏 弘典

日本の競争力の再構築へ向けて産学連携の重要さが論じられるようになって久しく、その具体化の一環として多くのTLO（技術移転機関 Technology Licensing Organization）が国の補助を得て各地に生まれました。TLOの活動は、大学や公設研究機関の研究成果を預かり、特許化し、その技術（シーズ）を必要とする（ニーズ）企業を見つけ、実施許諾を通じて産学連携の実をあげようとするものです。端的に言えばシーズを前提にニーズを探す活動といえます。

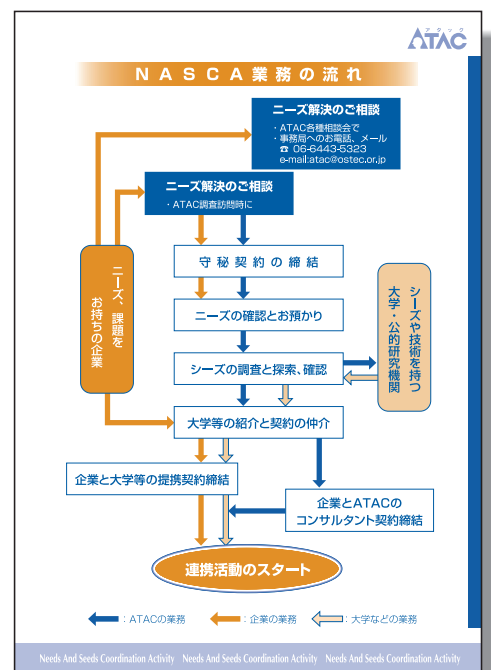
人材不足や日常業務の忙しさから未解決のままの多くのニーズを抱えている中堅・中小企業にとっては、この逆の視点に立った産学連携の推進、企業のニーズを前提に大学などのシーズを探す活動がより効率的です。この活動を初めて組織的に進めているのがATACのNASCA (Needs and Seeds Coordination Activity)なのです。ATACは趣旨にご賛同いただいた企業を定期的にお訪ねし、ニーズをお預かり。お忙しい企業に代わって大学などのシーズを探し、最適な技術や研究者をお引き合わせします。企業の要望が有れば、ATACはコンサルティングとして、共同研究契約や技術指導契約のお手伝いもしますし、共同研究プロジェクトに参加しての研究推進のお手伝いもします。

NASCAは、予備的な活動の後、平成14年度からスタートしましたが、その一年間の状況は次のとおりです。

NASCAをご紹介した企業	226	社
ご賛同いただいた企業	69	社
お預かりしたニーズ	6	件
シーズ調査の対象（延べ）	17	大学
（延べ）	5	研究所・機関
お引き合わせしたシーズ	6	件

お預かりしたニーズやお引き合わせしたシーズ（大学、研究者名など）を具体的にお知らせできれば、制度の趣旨やNASCA活動の必要性をご理解いただきやすいのですが、いずれも製品開発に関わる案件であり、公表が難しい点、ご了解を賜りたいと思います。

ニーズを持って調査に伺った大学や研究機関は、それぞれ独立行政法人化を控えて産学連携に対する意識は高く、その熱意ある姿勢は、企業との協力を進めるのに十分な態勢が整いつつあるとの印象を得たこと、また、お引き合わせしたシーズやご紹介した先生の技術内容については、ニーズをお預かりした企業から、要望を十分に満たすものとのご評価いただき、それぞれの企業で今後の進め方が検討されてることをご報告し、NASCAの意義と可能性をご推察いただき、NASCA活用のご検討をいただければ幸いです。



# 「設計を考える」 刊行にあたって

近年は製・商品について、使用者、消費者の要求が非常に厳しくなっています。同時に市場での価格競争が激しく、開発のスピードも要求されています。その結果が品質上での問題や、さらに設計者が絶対犯してはならない安全性に疑問のあるものや法令違反などが続出しています。現実には、自動車のリコールの届け出、薬品や食品などの消費者用製品のリコールに関するメーカーや販売元の謹告など新聞に出ない日はありません。さらに、食肉や農産物、水産物などの偽装事件を含めると数え切れないくらい多くなっています。このような一次産品は直接設計とは関係ないと思われませんが、商品企画段階の作業は広義に解釈すれば設計行為そのものなのです。

商品企画、設計開発段階は製品の品質・原価・生産性の大半を決定づけるのです。設計者のひとりよがりではなく、常に冷静に幅広い使用者、顧客の身になった配慮が大切です。

往々にして、設計者は現実の作業に没頭してしまうと、新しい材料・部品、先進の技術を取り入れることや同業他社のものより機能的、価格的にも先んずることへの意欲で頭の中が一杯でとてもこの冊子にとり上げたようなことには、なかなか配慮が及ばないのが現実であろうと思われます。

最終的に設計が完了し、出図の前に、“法令は大丈夫か” “安全性はどうか” “どんな使い方をしても問題はなにか” などの確にチェックすることがリーダーや責任者の立場の方々の責任であり、これが重要なのです。本冊子はそのような際に何かのお役に立てばと思いとめました。設計技術周辺のことについて見直すヒントになれば執筆者としても幸甚です。

この冊子は第1章～第9章に分かれており、その概要は下記の通りです。

- 第1章 製品の安全性
- 第2章 法令の順守
- 第3章 P L（製造物責任）対策
- 第4章 信頼性について
- 第5章 設計に際して考慮すべき事項
- 第6章 C A Dについて
- 第7章 板金設計
- 第8章 プラスチック成形品の設計
- 第9章 機械加工部品の設計

この冊子をテキストとして設計技術者の勉強会や輪講などに利用してもらえばよいと思っています。なお、A T A Cでは、それぞれの企業の技術社員の勉強会、研修会などに講師を派遣することも承りますので、ご遠慮なくご相談ください。

（A T A C 藪野記）



## 読者の皆様との交流頁

この頁を読者の皆様とATACとの相互交流に使っています。企業の抱える当面の諸問題について、企業内だけで処理するより、他の企業やATAC等に課題を持ち掛け、他人の知恵や専門知識を利用した方が解決が早いケースが多いので、下記のように『読者の掲示板』と『企業PRコラム』を設けました。

### 読者の 掲示板

#### 設計技術者を 募集しています

当社は紙やフィルムのカッターおよび関連機械を設計から製造・販売・納入まで一貫したシステムで運営しており、印刷業界から製薬業界まで、幅広い分野でお客様に満足していただく製品を提供し、たいへんご好評をいただいております。

昭和37年の創業以来一貫して技術開発に力を入れ、設計力の強化を図っており、意欲ある設計技術者を募集しております。

お心当たりの方はATAC事務局までご紹介ください。(A社)

#### 中古工作機械を お譲りください

金型製作の中古マシニングセンターを購入希望します。仕様は下記の通りです。

1. 切削材料 アルミ、樹脂(通常エポキシ)
2. テーブルの大きさ 1100×500mm程度
3. 加工精度 5/100mm
4. 動作範囲 X: 1,000mm  
Y: 500mm  
Z: 400mm
5. 希望価格 500万円程度  
お心当たりの方はATAC事務局までご紹介ください。(N社)

### 企業 PR コラム

#### 蓄積した設計技術を核に

#### 技術力、開発力、製作力の強化に挑戦し続ける

#### 差別化技術集団 **KDC** 関西設計株式会社

代表取締役社長 岸田 千秋



当社は1979年日立造船(株)の工場内に13名のスタッフで誕生した設計会社で、船舶・海洋構造物の設計からスタートしました。急速に業績を伸ばし最盛期には200名弱の技術集団となりました。海洋施設から橋梁・産業機械・遊戯

設備まで幅広い分野で開発から設計・製作・施工まで一連の業務に発展するとともに、鋼構造物・耐震強度

等の構造解析技術も好評を博しています。最近ではATACの協力も得て先端技術の分野も手掛けています。

KDC関西設計はお客様のお役に立つ総合エンジニアリング会社として、更なる飛躍を目指していますので、ご利用をお待ちしています。

関西設計株式会社(略称KDC)  
〒550-0001 大阪市西区土佐堀1-4-8 日栄ビル  
TEL 06(6479)9050 FAX 06(6479)9070  
URL: <http://www.kdcks.co.jp>



ATACホームページもご覧ください

ATACニュース第4号に関するご意見、および今後のご要望をどしどしATAC事務局までご連絡ください。

担当/三原・橋本

### ATAC事務局

〒550-0004 大阪市西区靱本町1-8-4  
(財)大阪科学技術センター 技術・情報振興部  
TEL06-6443-5323 FAX06-6443-5319  
e-mail: [atac@ostec.or.jp](mailto:atac@ostec.or.jp)

URL <http://www.ostec.or.jp/tec/atac/index.html>

# ATACの内容

本会は長年の経験により独自の技術とノウハウを有する技術者・管理者を結集し、お互いの知恵を出しあい、学習しあい、ネットワークを活用するとともに、中堅・中小企業が抱える国際化、技術開発、人材育成等の諸問題の解決を支援することにより中堅・中小企業の発展に資することを目的とする。

～ATAC規約第2条より～

ATACは上記の目的に則り、これまで12年にわたり中堅・中小企業の発展のために数々の活動を推進してきました。その主なものを挙げますと

## 1. コンサルティング

ATAC活動の大部分を占める業務で中堅・中小企業の抱えるさまざまなテーマについて450件以上のコンサルティング業務に携わってきました。

## 2. セミナー開催・講師派遣

ATACは従業員教育、経営管理、ISO関連、品質管理などのセミナーを企画・実施し好評を博しています。また、講演会・研修会などへの講師派遣も行っています。

## 3. 書籍刊行

中堅・中小企業の発展に役立つため、これまでに刊行した書籍は下記の通りです。

- ATACの経営便利帳
- 現場の課題解決はこうする  
(中堅・中小企業の業務改善事例)
- 中堅・中小企業へのATAC提言集
  - ① 新商品開発のヒント
  - ② ISO9000認証取得の手引き
  - ③ ISO14001認証取得の手引き
  - ④ 中小企業のためのIT
  - ⑤ 材料選択の手引き
  - ⑥ 設計を考える

## 4. NASCA(産学連携のお手伝い)

企業の技術ニーズをお預かりして、最適な技術シーズを持つ大学や研究機関などを探し、ご紹介する業務です。

## 5. 公的支援情報送信サービス

ご希望の企業に、国や府県等による研究開発補助金等の公的支援募集情報をタイムリーに分かりやすくe-mailやFAXで無料配信する業務です。

新たに公的支援情報サービスをご希望の企業の方は下記の申込書にご記入の上、FAX (06-6443-5319) でお申し込みください。

### 公的支援情報送信サービス新規申込書

企業名
所在地
担当者
TEL
FAX
E-mail
公的支援情報送信先 (どちらかに✓してください)
<input type="checkbox"/> FAX / <input type="checkbox"/> E-mail

## 書評

### 「環境経営 なるほど Q&A」

(株)中央青山PWCサステナビリティ研究所編 平成15年5月 中央経済社刊 2,400円

近年企業経営における環境問題への取り組みが次第に高まり、環境経営・環境マネジメントシステム・環境会計・環境報告書等の用語がマスコミにも盛んに取り上げられているが、この傾向に呼応して、環境経営に関する本が書店にたくさん並んでおり、この本は其中でもQ&A方式で分かりやすく解説しているのがよい。

Q:「環境経営とは何か」に対して、A:「環境経営とは環境を重要な戦略的要素とする経営です」と簡潔に答える形式用語の説明から始まり、法規制への対応、ISO14001認証取得は本当に必要ななど、中小企業経営者からよく聞く疑問や問題点に答える形でまとめており、経営者の常識として一読の価値がある。

文中に「自社にとって環境マネジメントシステムを導入する目的、求めるメリットは何でしょうか?」と問いかけているように、環境問題に取り組むには、そのメリットを十分把握した上で、経営者・従業員の意識を高め全社的な取り組みが不可欠と主張している。

ATACでは中小企業の環境問題に対応するため、環境ワーキンググループを発足させ、個々の企業特有の環境問題に取り組む体制を整えていますので、気軽にご相談ください。